

暮春芸文フェスティバル

台南園区の迎曦湖畔で8週間（3月9日から4月27日まで）にわたって開催された南科暮春芸文フェスティバルには台積電音楽クラブ、聯電音楽クラブ、茂迪リコーダークラブ、南科実験高等学校初等部リコーダー部、蔡興国V.Sボリビア・アンデス楽団など16の団体が出演し、1000人以上の観衆を集めました。南科暮春芸文フェスティバルを通じて「身近に音楽のある生活」を実現し、アーティストたちの無限の創意とパワーを感じることができました。



■ 観衆とともに盛り上がる「心伝楽団」のステージ



■ 南科実験高等学校による見事な金管五重奏



■ 大人気の台積電ウクレレ・ガールズ



■ 大自然の歌声 — 泰武小学校の古謡伝唱隊



■ 大地に響く音色 — 茂迪リコーダークラブ



■ とともに楽しもう — 「太子楽団」

文化芸術同好会 共に芸術を楽しむ

一般市民にも南科芸術の素晴らしさを知ってもらおうと6月16日に「文化芸術同好会」が設立されました。同好会には南科の文化、芸術に関心の高い28名の団員が集まり、一般市民に南科の文化、芸術とその特色について紹介する活動を行うことになっています。



■ 同好会のメンバー

芸術的な聴雨軒 西拉雅文化を再現

公衆トイレの壁絵の第三弾として、台南園区の心臓部にある西拉雅広場・聴雨軒の壁絵制作を台湾人アーティストのCrazy JasonとGirenhaolに依頼。4月18日に完成しました。かつてこの土地に栄えた西拉雅文化を題材とした壁絵には、17世紀初めにおける西拉雅族の生活風景が表現されています。



「花現荷蘭」 道爺湖の公衆トイレが装いを新たに

400年前（1624-1662年）にオランダ人がはるばる海を越えて交易にやって来たように、今では南科の入居企業だけでも2社(TSMC、UMC)がはるか遠くオランダの地に拠点を構えています。そこで、アーティストの陳琿瑛は「花現荷蘭（オランダ発見）」というテーマを掲げ、道爺湖の公衆トイレの壁絵を制作。東西文化の交流を色彩豊かに表現した壁絵は11月28日に完成しました。

南科の「クロ」 大学へ

アーティストの劉育明と郭瑞祥は、南科で発見された4800年前の台湾最古の犬にちなんで可愛い「クロ（小黑）」を創作しました。この「クロ」が屏東商業技術学院の招待を受け、学園祭の開かれる一ヶ月間（2013年12月13日から2014年1月8日まで）、屏東商業技術学院のキャンパスに展示されることになりました。これは南科の公共芸術にとって初めての「出前」であり、芸術を通じて心温まる交流が生まれました。



公共芸術の設置

2013年、台南園区には新たに7体の作品からなる公共芸術「我們將再向前飛行」が設置されました。制作者の方恵光は、その時代、その時代の人々の手によって大切に引き継がれてきた南科のこの土地に新たな歴史の一頁を刻みたいと語ります。台南園区では2013年までに合わせて42の公共芸術が設置されたほか、公共施設の芸術化（7件）や企業所有の建築物の芸術化（9件）も行われています。

高雄園区では2013年に公共芸術設置事業の第一期分として11の作品が選ばれ、2014年にはこれらの設置が完了する見込みです。

